

大分とり天ラウンド開催報告

テーマ：豊かなスポーツライフを実現及び継続するための資質・能力を育成する授業づくり

4年ぶりの対面開催を含む、Zoomでの参加、初のハイブリッド開催で、体育の学びを盛り上げる会となりました。参加された方々は、小学校関係者が多かったのですが、学生の方も参加いただき、それぞれの立場から体育の授業のあり方について意見交換をすることができ、参加者の皆さんにとって充実した内容となりました。ありがとうございました。



日時 令和5年12月9日(土) 13:30~16:30

参加者 小学校関係者 8人 中学校関係者 1人 高校関係者 1人 大学関係者 3人 学生1人

■ 実践報告(九州学体研大分大会)

【小学校】「全ての子どもに運動の楽しさや喜びを味わわせ、自ら学ぶ力を育てる体育学習をめざして」

～1人1台端末を活用し、個別最適な学びを保障する授業のあり方～ 大分市立明治小学校 教諭 石川 信太郎 氏

5年生のボール運動で「フットホッケー」を扱った報告がされました。どの児童も学習に参加できるように教具(専用のパック)、ルール、コート等が工夫なされていました。特に、ボールを持たないときの動きを例示し、ワークシートに記載することで児童が理解し、共有できるようにしていました。これを基に1人ひとりのめあてを設定したり、児童同士で共有して見合い、教え合う視点にしたりしていました。ゲーム間の話し合いや学習の振り返りは、タブレット端末内にあるワークシートに書き込んだり、カメラ機能でチームメイトの動きを撮影したりするなど1人1台端末を効果的に活用していました。1人ひとりが自分の課題を把握し、その課題の解決につながるように1人1台端末を活用することで、どの児童もキビキビと動き、仲間と協力しながら動きを高めようとしている姿が多く見られる活気のある授業の実践報告でありました。

【中学校】「合理的な課題の解決に向けた保健体育科授業」大分県教育庁体育保健課 指導主事 高木 裕規 氏

2年生のダンス(現代的なリズムのダンス)の実践が報告されました。中学校のダンスの課題として、ステップの指導を重要視してしまうあまり、上半身の動きが見られにくいことがありました。この課題を踏まえ、動きの自由度を高め、曲を聴き、リズムを感じ取って、動くことができるような授業にしたいという思いから構想していました。どの生徒も曲等から感じたことを基に楽しそうに動いているとともに、自分たちの必要に応じてグループで話し合ったり、1人1台端末を活用したりしながら解決しようとする場面が多く見られた、活気のある授業でした。

【高等学校】「発見した課題を合理的な解決に導く保健体育科学習」大分県教育庁体育保健課 指導主事 塚本 涼 氏

1年生の球技で、バスケットボールの実践が報告されました。1人1人の生徒が「スペーシング」について理解したり、意識して動けたりすることをねらっていました。本時では、ハーフコートで攻守交代型の簡易ゲームを行うこと、そのコートを6分割で示すこと等の工夫がなされていました。また、望ましい動きに関連されて、評価の視点を示し、生徒と共有できるようにするとともに、観察で見取る姿と事後のワークシート等で見取る姿を明確にしていました。授業後の協議では、3つの資質能力を効果的に育成できる単元デザインというテーマに対し、「美しい右肩下がり」と例えられ、単元を通して、学習内容を知識→技能→思考・判断・表現→態度面に関連させながら指導し、それに対応して評価の計画もなされていることが報告されました。

■ 九州学体研の授業、指導案をブラッシュアップ(協議)

小学校、中学校、高等学校グループに分かれ、ワークショップを行い、「ワークシートの点数は自分のめあての達成度なのか、チームの作戦に対するものなのかを明確にした方がよい」「OPP(OnePaperPortfolio)シートがあると見通しは持てるものの、児童の自由度が下がる」「汎用知が大切である」「模倣する楽しさは、教師から押しつけるのではなく、生徒の内側から湧き出るものと捉えるべき」等の意見が出され、参加者全員で共有することができました。

■ まとめ、情報提供等

桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部スポーツ教育学科 教授 佐藤 豊 氏

第3期スポーツ計画の概要、楽しさを深く味わうため姿をマズローの欲求階層的に表すこと、「協力する能力」と一口にいっても、知識・態度・感情・価値観と倫理観等の多くの要素が必要とされるが、体育は教科として、その部分の育成に重要な役割をになうことができること、日本人は諸外国と比較して、多様性を受け入れる土壌が少ないため、意識して育成する必要があること等、多くのことを情報提供してくださいました。